

ROTARY CLUB OF

**KANAZAWA-NORTH**



**金沢北ロータリークラブ**

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：依 外代吉 幹事：本岡三千郎

情報委員長：吉田富士夫

1987・10月29日 第352号

「21世紀に海面は5m上がる」

金沢大学教育学部教授 藤 則 雄 氏



最近日本を含む先進諸国では、空気が汚れています。

そのひとつはフロムガスで、消火器、半導体、スプレーなどに使用されます。太陽から放射されるエネルギーには、紫外線が含まれていますが、生物に害をもたらし、それをオゾン層がさえぎっています。フロムガスは世界で年間 110万トン生産し、大気中に発散され、これが多くなると、地上数10キロm上空に2、3層あるオゾンが破壊されます。

いまひとつは炭酸ガスの増加で、その性質は、太陽エネルギーを透過し吸収できますが、いったん吸収して温めてしまったエネルギーを、地球の外へ発散するのを防ごうとする作用を持っています。

学者の計算では、今後も炭酸ガスが増え続ければ、2020～30年に地球の気温は、今より3～4度上がると推定されます。これは九州の気候が北陸あたりになるわけで、シベリヤの農作などに良い面も出るが、困る場所も出来ます。メソポタミヤやエジプトは5000年前に大繁栄し、それが減んだのは、気温が上がり砂漠化したのが原因とも云われます。

地球の気温が上昇すると、南、北極の氷河や、高山に分布する万年雪が溶けて河川から海へ流れるので、海面が上がります。私の試算では、かりに南、北極の氷床が全部溶解すると、地球上の海面は71mも上昇して、6割の地面が無くなり、都市の多くは海拔10m以下にあるので、大部分の都市が海底に沈みます。

琵琶湖は 500万年前に誕生した、世界第3の古い湖で、500万年間の気候の変化が解ります。それによると今から2万年前には金沢の気候が、北海道の札幌のようでした。それが大氷河期ですが、年平均気温が7～8度下った時代です。海面は120mも下がり、現在、魚群の豊庫である大陸棚はその当時の海岸線です。逆に上った時代はどうか、金沢の小立野、寺町台地は13万年前に気温が4～5度上がった時の海岸線で、5000年前の縄文前期に2～3度上がった時には、香林坊の109や日本銀行の裏にある5mほどの崖が海岸の跡に出来ました。

38豪雪の頃から地球の気温はだんだん下りました。この気温は天命、天保の飢饉と同じで、人間が人肉を食べる悲惨さでした。現在の日本は、政治、流通が良くて有難いが、東アフリカ、インドでは9秒に1人の死者が出ています。

工業の発達と言う人間のなせる業により、30～40年後に5mも海面が上がるのは、困った現象ですが、人類の英知で対応しなければならないと思います。

—金沢北RC例会講話より— (文責 吉田富士夫)



## 春田義正さんを偲んで

春田義正君

(10月5日ご逝去)

土原 一二

昭和56年7月ロータリー入会以来、本年4月まで、見事な皆出席で、それも殆どホームクラブであった。骨太の丈夫なお体で、この10月5日にお亡くなりになるとは、誰が予想したであろうか。生前の氏の活動振りを見て、ロータリーに対する情熱は絶大なもので、時が経つにつれて、いゝ人をお世話したものだ、私は内心喜んでいたので。というのも、私が入会保証人の一人ですから水を得た魚とは、この人のことかと思うと同時に期待感がますます大きくなった。実はその時までには、同じ町内に住む顔見知りとお墓のある御園借の関係だけで、氏とのおつき合いは殆どなかった。先代住職が亡くなる少し前、長い間の本山関係の勤務から帰坊されて、法要、寺院改修と何やかやと多忙な時、入会をお奨めした時は、だめかなあと思っていた。所が2、3日後に、「貴殿にお任せする」の返事をいただいた時は、嬉しかった。

入会后「私の名刺」によって、氏の御経歴は勿論、その御抱負までもわかり、きっといいロータリアンになる方だと思っていた。案の定、其の後の氏のロータリー活動は素晴らしく、例会、諸会合の出席はもとより、昭和59年8月の早朝例会は自坊、泉龍寺で行われたし、韓国南光州ロータリークラブへの友好訪問にも参加、又第671回例会では「仏教の儀式について」でわかり易いお話をし下さったり、情報委員長を2年連続つとめられる等、会員のつとめを充分に果して居られた。お葬式の弔辞によると、若い頃から公民館運動で社会教育に奔走されたり、青少年指導育成に大変な御苦勞をなされたとのことで、尚更惜しい人物を失ったものと痛感した。あれこれ思っても今はもう仕方のないことで、只管亡くなった春田さんの御冥福をお祈りするのみです。

合掌 !!

越野民男

10月5日金大がん研附属病院外科の報告書が届いた。「腫瘍並に食道静脈瘤からの出血。本日7時30分他界されました。一般に胃でも入口の癌は発見極めて困難視されている。然も彼の場合、胃に現れて居たのは、ほんの冰山一角で中にかくれて大きな塊にまで発達していた。医師団では術前既に手術不能と診断したが、本人等の希望もあり止むなく開腹したものの、摘除出来ずその儘閉鎖せざるを得なかったとの事。診察は私でなかったが手術病院の紹介を依頼され、希望のまま上記に入院された関係上種々経過報告書を受け取りました。私事、クラブ入会の保証人でもあり、追悼文の依頼を受けましたが、職業から病気の秘密保持の責任があるとは云え、既に皆さん御承知の病名でもあり敢えて説明させて頂きました。「最後には鼻からも口からも血を噴き出しましたが、一回も痛いと言えませんでした。寿命です。」黙って奥さんが云われました。

今回略歴を交え乍ら、終始宗教活動に身を捧げた彼を紹介し、暫し春田義正会員を偲んで頂ければ幸と存じます。石川県高松町在住の父が今は亡き兄と二人を連れ、北海道士別に新寺院を求めて渡海したのは彼の10才の時でした。大谷大学卒業後、大学推薦にてハルピン大学へ留学したのは世界戦争勃発早々の事で、当時習得したロシア語のお陰で通訳要員として軍略を免る。その頃酷暑厳

寒をいとはず蒙古の地で布教に献身した事はよく聞かされた彼の青年賛歌であり、後に宗教人春田を形成した礎となった様だ。終戦近く帰国、一時札幌女子商で教鞭をとる。生徒間に相当印象深かったと見え、毎年開かれるクラス会に招待されて居たとか。去る夏、私等夫妻が北海道旅行の機上で偶然遭遇、一夜札幌の酒場を案内されたのもその旅先でした。父同志の知り合が縁となり大樋町の泉龍寺に養子。終戦後の人心の乱れを憂い、同志と語り「正覚大音交響十方」と人絹に墨書した流し旗を押し立て近江町、彦三、尾山神社前のヤミ市等、人だかりを求めて辻説法、又23年の宗教平和博覧会に「地獄極楽」現代版を企画発表する等、又青年宗教同人会の音頭をとるかたわら、広く若者を集めて開いた大谷仏教青年会は現代も脈々として生きて居ます。27年頃彼が熱中して居た公民館と私の勤務して居た診療所が同じ屋根の下にあった事が二人の縁結びとなりました。31年頃越後高田別院の輪番、同教務所所長として赴任。当時焼失していた高田別院建立に儘力、門徒、商工会に呼びかけ見事成功したのが好印象となり、其の後三条、七尾、北海道、岐阜、福井等々の輪番や京都教務所所長、本山の組織部長、総務部長を歴任されたが、任地の随所での布教活動は間断なく続けられ、特に若者への仏教心の芽生えに貢献、青年仏教会を設立された事は、離れた私の耳にも再三聞えて来ました。先日の葬儀には、そうした異郷のゆかりの人々や北海道の教え子迄参列して頂きましたと、奥さんが目頭を押えて居られました。

55年義父亡きあと故郷に帰沢。帰宅後は若きイメージの彼に比べ円熟し、むしろ地味な様に見えました。門徒奉仕に専念し乍ら刑務所の教誡師として囚人に仏門の心を伝え、又泉龍寺子供会を作ってお経の普及に努力、電話による3分間御説経は広く新聞に賛辞をもって報道されていた。これからの郷土の宗教界を担って羽ばたく存在ただけに只々運命のいたずらと残念に思われます。

「長い間留守をさせた」最近奥さん同伴の旅行が多く、ロータリーの韓国訪問、中国、インド、シンガポール、香港等々の旅は夫人にとって忘却し難い思い出だった。「これで思い残す事ありません」笑って云われました。

死の近く迄生きる望みは捨てなかったのか「早くロータリーへ出なければ」とよく私に尋ねられました。宗教人として歩いて来た彼はまさにロータリーの道も踏み進んで居たのでないでしょうか。帰えりがけに見たお御堂の柱に墨書してあった次の彼の詩を記しておきます。

人生のあらゆる苦悩は 欲望と無理から生ずる

厄介な世話や仕事を 喜びながら出来るのが報謝である

合 掌

### 今週の花

吉山宥海  
(10月15日)

更科升麻  
山りんどう  
秋のきりん草



